

**京都大学教育研究振興財団助成事業
成 果 報 告 書**

平成 22年 9月 27日

財団法人京都大学教育研究振興財団
会 長 辻 井 昭 雄 様

所属部局 医学研究科

職 名 教授

氏 名 椎名 毅

事業区分	平成 22 年度・シンポジウム等開催助成		
事業内容	生体医工学国際会議2010 (BMEiCON2010:The 3rd Biomedical Engineering International Conference)の開催		
開催期間	平成 22年 8月 27日 ~ 平成 22年 8月 28日		
開催場所	京都大学百周年時計台記念館 国際交流ホール		
成果の概要	タイトルは「成果の概要/報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有(プログラム・抄録集)		
会計報告	事業に要した経費総額	(飲食・宴会経費を除いた額)	2,301,372 円
	うち当財団からの助成額		1,500,000 円
	その他の資金の出所	(機関や資金の名称)	BMEiCON 2010参加費収入
	経費の内訳と助成金の使途について		
	費 目	金 額 (円)	財団助成充当額 (円)
	会場費	371,490	371,490
	会場設営費	205,547	205,547
	参加登録委託費	524,164	524,164
	基調講演者招聘費	204,750	150,226
	印刷費	67,262	67,262
	論文集・CD-ROM制作費	181,311	181,311
Conference kit制作費	95,338	0	
人件費	277,525	0	
実行委員会経費	373,985	0	
合 計	2,301,372	1,500,000	

成果の概要／椎名毅（京都大学大学院医学研究科）

シンポジウム名称：生体医工学国際会議 2010

(BMEiCON2010: The 3rd Biomedical Engineering International Conference)

開催期間：平成 22 年 8 月 27 日～8 月 28 日

開催場所：京都大学百周年時計台記念館 国際交流ホール

概要：

国際会議The Biomedical Engineering International Conference（略称 BMEiCON）は、医用生体工学分野における先端技術とその応用に関する研究成果の発表と情報交換を行い、当該分野における研究の推進と、特にアジア諸国を中心とした研究者間の交流を図ることを目的に設立されたもので、第1 回目が2008 年にバンコクで開催された。その母体となるのは、タイ国の医用生体工学会（ThaiBME）で、我が国の電気学会医用生体工学技術委員会や、IFBME(国際医用生体工学連盟)などが共催となり協力している。

2009年のBMEiCON2009は、タイのプーケットで開催されたが、今回のBMEiCON2010 は、初めての日本での開催となった。

8月27日（金）、28日（土）の2日間にわたり、京都大学百周年時計台記念館の国際交流ホールⅠ、Ⅱ、Ⅲの3会場において行った。詳細は、添付の抄録集に記載されているが、以下のように、3つの基調講演と、15の一般セッションからなるプログラムに沿って行われた。

- 27日（金） 10:30-10:50 開会式
10:50-11:40 基調講演 1
11:40-12:40 一般セッション（「画像 1」、「バイオテクノロジー」、「装置 1」）
13:30-15:30 一般セッション（「画像 2」、「信号 1」、「装置 2」）
15:50-17:50 一般セッション（「画像 3」、「超音波」、「装置 3」）
19:00-21:00 懇親会
- 28日（土） 9:30-10:00 基調講演 2
10:20-12:00 一般セッション（「信号 2」、「ロボット/AI」、「その他」）
13:00-13:40 基調講演 3
13:40-14:40 一般セッション（「画像 4」、「組織工学」、「モデリング」）
14:50-15:10 受賞式、閉会式

なお、前日 26 日まで会場が他の行事に使われており、会場の設営を当日の朝 9:00 に行う必要から開催は 10:30 からとなった。そこで、参加登録時間の節約のため、事前受付を前日の夕方から芝欄会館別館でいった。開会式は、General Chair の椎名の他に、ThiBME を代表して、ThaiBME 会長で、Srinakharinwirot 大学医学部長の Somkiat Wattanasirichaigoon 教授が、また本学からは医学研究科人間健康科学系専攻長の坪山直生教授が祝辞を述べた。

基調講演の3件は、以下の医工学分野のトピクスとなるテーマ3件について行われた。

1. Somkiat Wattanasirichaigoon教授 (Srinakharinwirot大学)：“Biomedical Engineering Framework for the 21st Century Creativity and Innovation”
2. 松田哲也教授 (京都大学):“Physiological Simulation of Cardiac Motion: from Cell Model to Heart Model”

3. 榊田晃司准教授（東京農工大学）：“Active control of microcapsules in vivo with mechatronics and informatics”

この他、一般演題も含め発表演題は64件で、プログラムにあるように連名を含む発表者は123名であった。実際の参加者は、招待者を入れて約100名であった。内訳は、タイと日本がほぼ半数で、台湾からが2名であった。参加国については、この学会の設立がタイ医用生体工学会を母体としていることもあるが、それでも今回は、タイの国外で行う初めての会議であることから、タイからの来日が50名近くというのは、予想以上の参加者数であり、参加総数や発表演題数自体も前回のプーケットで会議を上回るものであった。

また、学会プログラムではないが、タイからの参加者は、チュラロンコン大学、キンモンク工科大学、タマサート大学などのタイの主要大学の医工学研究者であり、京都大学における関連分野の研究室見学の希望が強かったため、京都大学病院医療情報部や、放射線治療部の協力を得て、初日27日の開会式までの時間を利用した早朝見学ツアーを実施し、好評を博した。

また、この会議の主旨の一つに医用生体工学分野における学生や若手研究者の育成もあるため、その促進の意味で、優秀な論文発表者を表彰する BMEiCON2010 Best Paper Award を設けた。各セッションの座長とプログラム委員会による審査の結果、3件の優秀論文が選出され、閉会式の場で表彰を行った。

本国際シンポジウムは、タイ国を含め東南アジア諸国における、これからの発展が期待される医用生体工学分野の充実に向けて、日本の国際貢献という視点でも重要な役割を担っている。その点でも、今回は BMEiCON の初めての日本開催であったが、前回以上の盛況な会とすることができ、アジア諸国を中心とした医工学分野における研究の推進と、研究者間の交流を図ることができたと言える。

最後に、今回は、国際会議とは言え円高の影響もあり、海外からの参加者へは国内参加者よりも、参加費を低く設定する必要があったが、今回の貴財団からの助成を頂いたことにより、運営経費の点で心配することなく、計画どおりの充実した会議を開催することができた。ここに、改めて貴財団へ感謝の意を表したい。